（郷土）常磐南小学校　３・４年

エコロタウンのすてきを見つけよう

５月～１１月（１７時間）

１　ねらい

本実践では、新興住宅地「エコロタウン」を教材化することにした。エコロタウンは学区の人々が、人口減少に歯止めをかけるために誘致したものである。誘致成功によって新築の家が建ち始め、本校にも転入生が増えるなど、人口増加策として成果を見せ始めている。その反面、開発を進めることで自然破壊を心配する声や、従来からの常南学区の住民とエコロタウンの新規参入者との価値観の違いといった問題も生じてきている。

こうした点からエコロタウンは、本学区の良さや問題を内包している地区であると言える。エコロタウンの良さを見つける追究学習を行えば、子供たちは新興住宅地の魅力について考えていく中で、自然と学区の素晴らしさにも気付いていくことになるだろう。そして、良さと問題点が共存するエコロタウンや本学区の未来をどうしていくのかということへも意識を向けていくと考える。常南学区を持続発展可能な地域とする「担い手」として育成したい子供たちにとって、適した素材であると考えた（**手立て①エコロタウンの教材化**）。

２　実践の概要

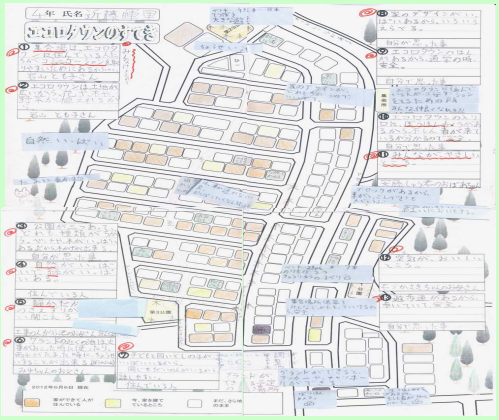
（１）エコロタウンのすてきを見つけよう

新興住宅地の人気の秘密を探るための学習課題は「エコロタウンのすてきを見つけよう」となった。エコロタウンの良さ見つけである。見学・聞き取り学習に当たって、教師自作の大きなエコロタウンマップを子供たちに与えた（**手立て②エコロマップの活用**）。このマップに、子供たちはエコロタウンの良さを書き込んでいき、エコロタウンに住む人への取材（**手立て③見学聞き取り調査の充実**）も交えながら、調べを進めていった。そして、どんなすてきを見つけたか学級で話し合うことにした。

話し合いでは、Ｃ４「自然がたくさん」Ｃ６「空気がいい」Ｃ８「花の色がきれい」Ｃ９「風通しがいい」といった自然環境の良さをエコロタウンの魅力とする意見が続いた。Ａ児５は「小鳥の囀り」を良さとして挙げた。さらにＣ１１「緑道の安全性」やＣ１３「エコロの住民の優しさ」Ｃ１４「同世代の人が多い」ことなども、エコロタウンの良い面であるといった考えが出されてきた。Ａ児１２は「土地が安い」という視点で人気の秘密に迫っていくとともに、Ｃ１４でこどもが同じところに通っていることから住民の一体感が生まれつつあることに気づいていった。こうして子供たちは、エコロタウンがさまざまな点で工夫がなされており、常磐南学区にふさわしい住宅開発が行われていることを知り、エコロタウンに対する好意を感じていった。

Ｃ４：周りに自然がたくさん。自然体験できる。
Ａ児５：静かで小鳥の囀りが聞こえる。
Ｃ６：都会は車のガスで空気が良くないけど、エコロタウンは空気がいい。
Ｃ７：虫がいっぱいで楽しいと大工さんが言っていた。
Ｃ８：いろいろな花の色がきれいで素敵。
Ｃ９：風通しがいいから夏も涼しい。
Ｃ１０：土地が広いから木がたくさん植えられる。

授業記録１：エコロタウンの良さ



資料１：大きなエコロタウンマップ

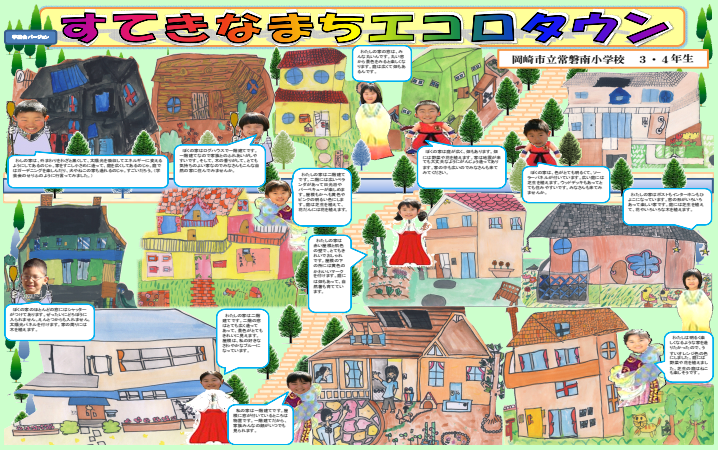
（２）もっと住みやすいところにするための方法を考えよう

子供たちが調べたり聞き取りしたりしたことは、一人一人が持っている大きなエコロマップに記入してきた。それをもとに話し合いで確認したり、考えたりしたことを廊下に掲示した「巨大エコロマップ」に集約した。この「巨大エコロマップ」が充実していく中で、子供たちは多くのことに気づくことにつながっていった（**手立て④エコロマップの活用**）。現地調査のたびに調べた内容をエコロタウンマップに記入してつけ足してきた。これをもとに自分の考えをまとめたり話し合いを行った。子供たちは、この「巨大エコロタウンマップ」から「エコロタウンの課題や問題点が、常南学区の問題点と重なるところが多い」ということに気がついていったのである。そこで、エコロタウンをもっと住みやすいところにするための方法を考えることにした。子供たちは、**①「エコロタウンのＰＲ」②「エコロタウンのイベント」③「エコロタウンと地元との交流」**の３つを行動に移していくことにした。４人１組の班３つをつくり、アイデアを出し合って活動することにした。子供たちは自らを「エコロＰＲ隊」と名付けていった（**手立て⑤「エコロタウンＰＲ隊の結成」**）。

Ｃ１１：緑道があると子供も安心して通れる。
Ａ児 12：都会は土地が高い。エコロタウンは安くて広いから花や野菜を植えれる。
Ｃ１３：エコロの人は優しくてインタビューしやすい。
Ｃ１４：同じ世代の人がいっぱいいる
Ａ児Ｃ１５：こどもが同じ幼稚園や小学校に行っているので話が合う。
Ｃ１６：子育てでこまったら、近所の人に相談できる。

授業記録２：エコロタウンの良さ

子供たちは、まずはポスターとちらし作りに着手することになった。話し合いの結果、自分たちがもしもエコロに家を建てるとしたらどんな家にするか絵にして、それをもとにポスターとチラシを作ることとした。子供たちは、みんなの絵を一つにまとめてポスターを作ろうと提案した。さっそく１２名の子供たちは、自分が住みたい家を考えて絵にすることにした。家の形やデザインは自由だが、どの子の家にも庭があり、花や野菜が作られ、へいや垣根はない。そこには家族がすぐに顔を合わせられる家があり、子供たちが夢見る温かな住宅地があったのである。ポスターから作ったちらしを総合案内所に届けると、たいへん喜んでいただき、すぐに案内所に掲示してくださった。エコロタウンＰＲ隊は、自分たちのポスターに力がありそうなことを感じとり、掲示されたポスターを誇らしげに見ていた。



資料２：ポスターから作ったチラシ

３　実践を振り返って

子供たちは、高校を卒業するころから次第に、ふるさとの常南を一度は離れる者が多い。ふるさとに戻る者もいるだろうが、別の地に根をおろす者もいる。どこで人生を送ることになったとしても、ふるさとの常南を愛し、自分たちを育ててくれた温かい風土に思いをはせる人になってほしいと強く願う。そして、自分のその時にやれる方法でふるさとを支えてほしいと思う。常南を大切に思い、将来につながる温かい地域づくりや人間関係を築いていくために、自ら行動を起こす子の育成を目指して今後も研究を行っていきたいと思う。